

情報連絡員報告結果（令和5年11月）

和歌山県中小企業団体中央会

【和歌山県の業種別・前年同月比の景気動向】

		売上高	在庫回転	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業	雇用人員	業界景況
製 造 業	食料品製造業	↓	→	→	→	→	→	→	→	↓
	繊維・同製品	↑	↓	↑	→	→	↑	↑	→	↓
	木材・木製品	↓	↓	→	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	印刷	↓	→	→	→	↓	→	↓	→	↓
	化学	↑	↓	↓	→	→	→	→	→	→
	窯業・土石	↓	→	→	↓	→	→	↓	→	↓
	鉄鋼・金属	→	→	↑	↑	↓	↓	→	↓	↓
	その他	↓	↑	↑	→	→	→	↓	→	↓
非 製 造 業	卸売業	↑	→	↑	→	→	→	X	↓	↓
	小売業	↓	→	↑	↓	↓	↓		→	↓
	商店街	→	→	↑	↓	↓	→		↓	→
	サービス業	↑	X	↑	→	→	→		→	→
	建設業	↑		↓	→	→	→		↓	→
	運輸業	→		→	→	→	↓		↓	↓

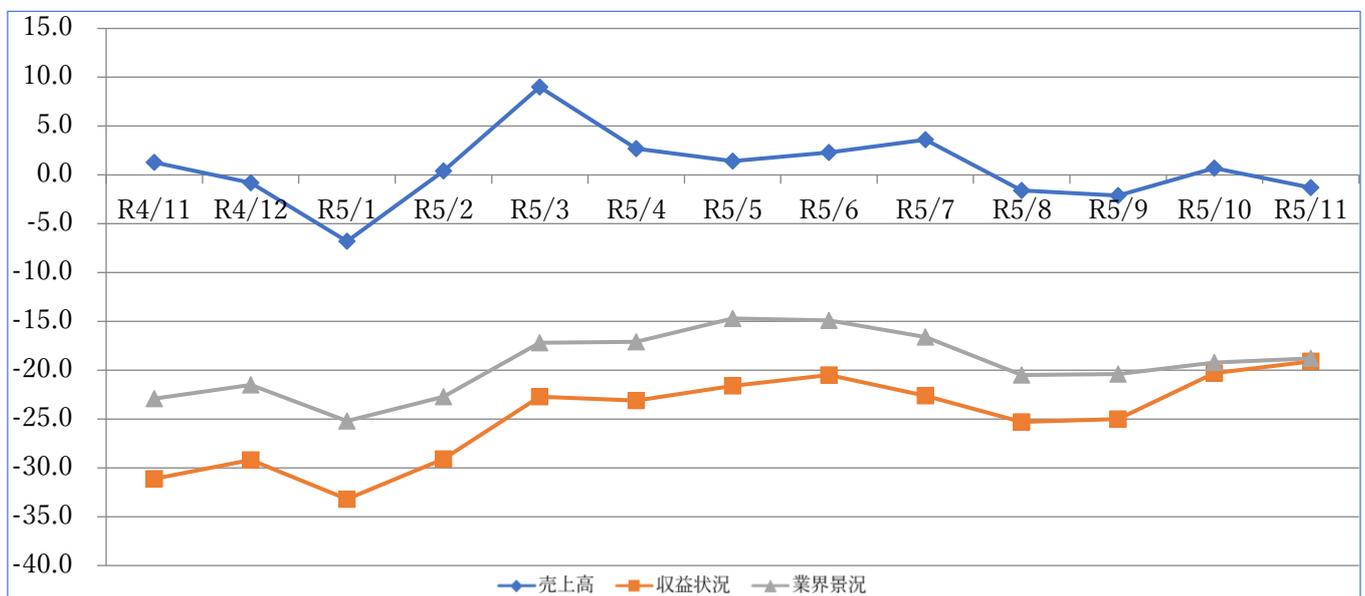
（ 増加・好転 ↑ 不変 → 減少・悪化 ↓ ）

【売上高・収益状況・業界の景況のD I値の前月からの動向】

「業界景況」のD I値は、マイナス 35.0 ポイントであり、前月（10月）調査と比べて 5.0 ポイント悪化。「売上高」は 7.5 ポイント改善、「収益状況」は 15.0 ポイント改善となっている。業界景況に関して、情報連絡員 40 名のうち、「好転」との回答は 4 名、「不変」との回答は 18 名、「悪化」との回答は 18 名であった。

【全国の景気動向】

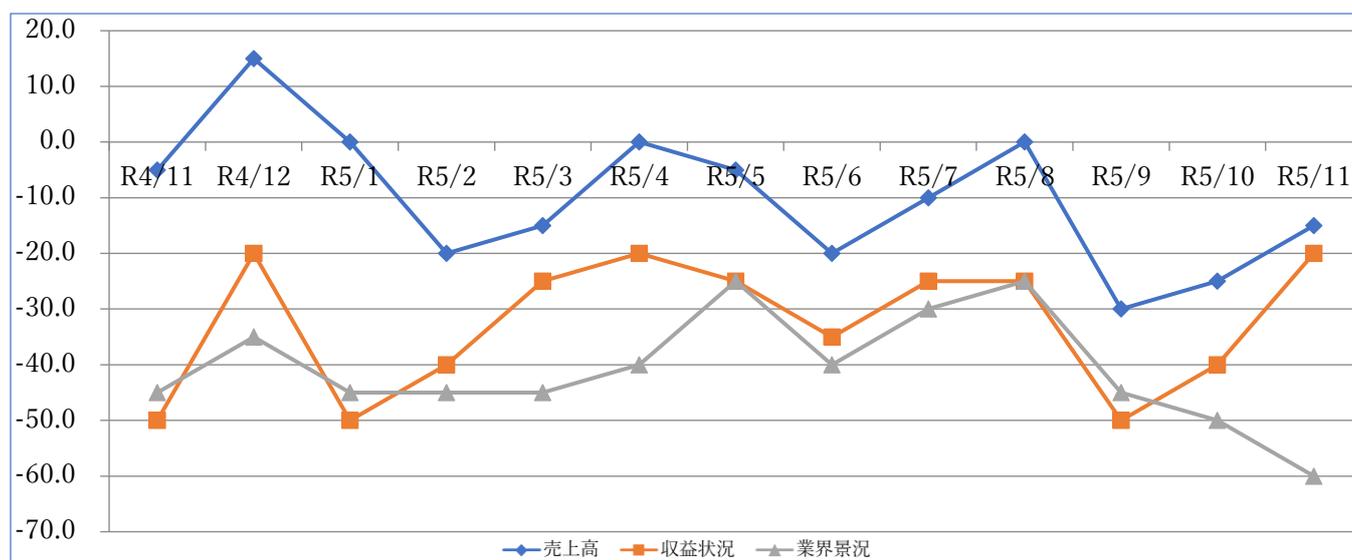
原材料価格や電力・ガス等のエネルギー価格の高騰に加え、労務費の上昇による収益悪化に対するコメントが多く、特に人手不足・人材確保の問題に関しては全業種から対応に苦慮する声が多く報告されている。また、10月から開始したインボイス制度について、その対応に苦慮する声も多く寄せられている。



【 県 内 製 造 業 の 動 向 】

和歌山北部の製材業からは、業界の好材料は見いだせず住宅不調は長引く可能性も拭えない。特に戸建て住宅の活気のなさが不振の背景にあり、ほとんどの地域で受注が伸びておらず、年内だけでなく年単位でも改善の見込みは厳しいとの指摘があり、来年の好材料はほぼないという声が出ているとの報告があった。

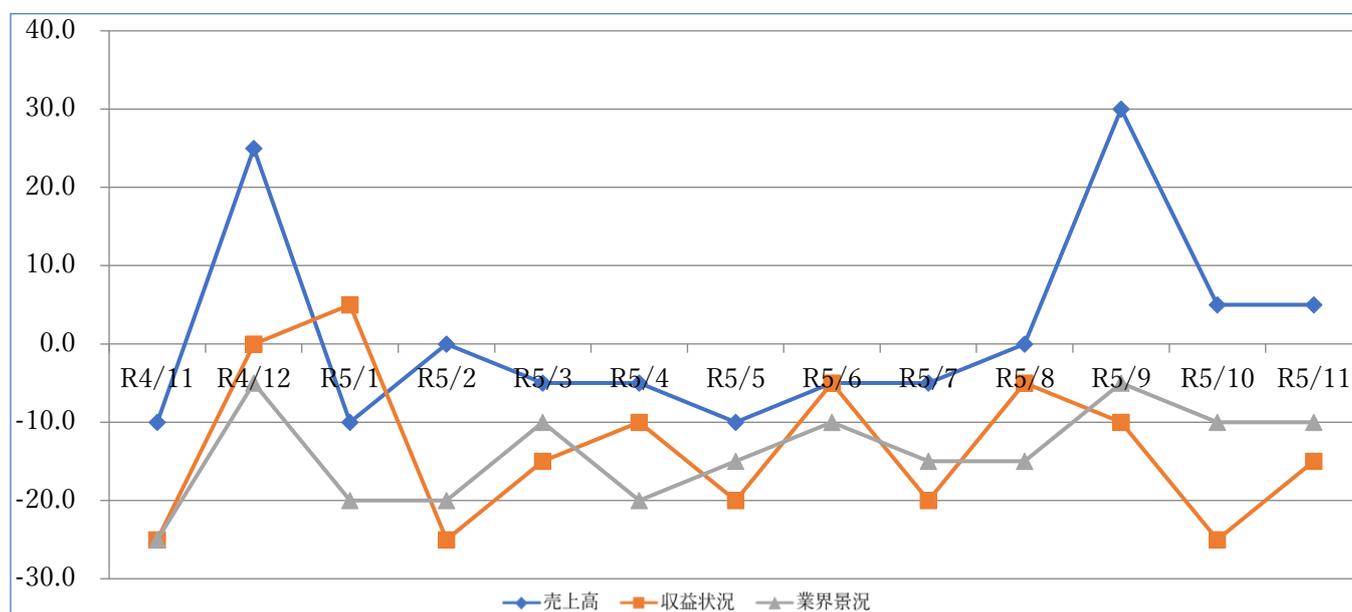
繊維業からは、物価高や賃金アップなどに対して、政府が推し進める製造の機械化や事務のIT化などについていけない事業者が増えている。物価高は原材料価格の高騰によるもので、企業の利益や賃金アップが含まれていないので、適正なインフレにならない不安を感じるとの報告があった。



【 県 内 非 製 造 業 の 動 向 】

LPガス販売業からは、これからの冬場のガス需要期に向けてガスの仕入価格下落が望まれるが、ロシア・中東の情勢、ENEOS和歌山の閉鎖に伴う配送運賃の上昇等先行きは暗い傾向にあるが、補助金を利用しての積極的な設備投資が業界内で進んでいる面もあるとの報告があった。

和歌山北部の運送業からは、燃料代・賃金・車両代などの高騰に対して運賃転嫁は進んでいるとは言えず、加えて景気減速に伴い物流が減少しており厳しい環境下であるとの報告があった。



【 特 記 事 項 】

分類業種	具体的な業種	景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点
食料品	味そ製造業	人手不足、原材料費、光熱費、輸送費、物価高などの問題に政府はしかとした対策を行うべきだと思う。
	野菜漬物製造業	製造、販売とも繁忙期なりの仕事は行えている。販売は、年内の配達の前倒しになっている傾向があり、商品の出荷が早まっている印象である。
繊維工業	縫製業	物価高や賃金アップなどに対して、政府が推し進める製造の機械化や事務のIT化などについていけない事業者が増えてきている。現在の物価高は、原材料価格の高騰によるもので、企業の利益や賃金アップが含まれていないので、適正なインフレにならないと思われる。
	織物業	例年通りの閑散期ではあるが、昨年より問合せは増えている。ただし、暖冬によって今期の冬物に売れ残りが発生するようなら、来期の動きにも影響が出そうで心配している。
	手袋製造業	11月の売上は前年同月と比較してかなり減少した。販売先形態や商品の種類ではなく、市場全般の動きが低迷しているようである。
木材・木製品	木材・木製品製造業 (和歌山市方面)	プレカット工場の11月の受注平均は91.5%と10月の回復基調から再び下落傾向で、今年度末まで受注は低迷するとの見方が多い。来年4月以降も好材料は見いだせず、住宅不調は長引く可能性も拭えない。特に戸建て住宅の活気のなさが不振の背景にあり、ほとんどの地域で注文や分譲にかかわらず受注が伸びていない。年内だけでなく年単位でも改善の見込みは厳しいとの指摘。来年の好材料はほぼないとの声が多いが、4号特例見直しに関連して構造計算の対応力が問われてくると好材料になると指摘する工場もある。
	建具製造業	依然として、原材料不足、原材料価格の高騰及び人員不足など取り巻く状況に変化はなく、建具業界は低迷状態にある。その主たる原因として、建築業界において、当業界と同じように原材料不足、原材料価格の高騰及び人員不足などに起因する着工に対する手控えが大きく影響していると思われる。
	木材・木製品製造業 (プレカット工場)	製材業は少し売上増加、プレカットの生産加工量は増加、県内の原木市の単価は横ばい状態であった。
	家具製造業	11月の業況として、前年比は単月では変わらず。年末に向けてやや先細りの雰囲気だが、提出済みの見積も多くあり一時的な落ち込みと考えている。資材の値上がりはここ4ヶ月程度高止まりかやや下降となっているが、塗料に関しては12月より1.3倍～1.5倍の値上げとなり懸念されている。
化学・ゴム	化学工業	米国の金利状況、中国の景気、ウクライナ侵攻に加え、イスラエルとハマスの抗争が始まり、不安定な状態となってきた。
窯業・土石製品	生コンクリート製造業	県中部の出荷の減少が著しい。今後の高速道路関係の需要に期待する。
鉄鋼・金属	金属素形材製品製造業	売上高は、前年同月比で約18%のダウンとなった。国内の需要が伸び悩んでいるように感じる。
	金属製品製造業 (和歌山県下)	全体として、受注増、売上がみられる。景況感も穏やかに改善していると思われるが、依然として、国際情勢の影響が大きく今後の海外経済の動きに期待したい。
その他の製造業	革製品製造業	先月に続いて厳しい状況が続いている。来年の夏・秋物の注文が出る時期で有るが、動きが鈍く、当面はこの状態が続くようである。
	漆器製造業	EC業界の市況は悪化、原材料・賃金の上昇により商品単価が上がり、売れづらい状況が続いている
	家庭用品製造業	現年前月比の売上高は増加した。例年に比べて上がり幅は少ないものの、年末商戦を控えた商品の流通は増加した。
卸売業	電設資材卸売業	売上高の増加については、官公庁建築現場の材料の納入が多くなっているため、今後年度末にかけても同じ状況が続く見込みである。また、資材の高騰も要因である。10月同様、過去からの製造業での経営の統合や効率化で生産ラインが減少しており、受注量が過大になると生産が追い付かず商品供給に問題が生じている。11月中旬に入り建築材料の供給に問題が発生し大

		きな影響が出てきており、年度末まで改善しない予測もある。県下の民間事業者からの照明や空調など省エネ機器への更新の問い合わせは増えているが、地方自治体の独自の補助金が他府県よりも少ないのが現状である。
小売業	ガソリンスタンド業	県内では、ガソリン補助金の終了に向け価格が上昇傾向にあったが、8月末の延長決定でガソリン価格は下落傾向であった。和歌山市のセルフ市況は依然安値から変動はなく、SSの収益改善の面から早期の市況改善が求められる。また、ガソリンに課されている揮発油税などのトリガー条項凍結解除をめぐる協議についての動向が注目される。令和5年度近畿府県合同防災訓練となる総合防災訓練に参加し、県の移動式給油所「どこでもスタンド」に組合員の所有するローリーと直結し、近畿各府県から集結した緊急消防援助隊の車両に軽油を給油した。また、橋本市でも災害時対応実地訓練を実施し、災害が起こった際の停電時に備え、自家発電機を稼働し緊急車両に給油する訓練を行った。
商店街	商店街 (和歌山市内)	賃金の上昇が物価の上昇に追い付いていない状況下、消費者のマインドは低調で、今期の冬季賞与に期待するところだが、歳暮などの社交儀礼の売上は年々減少傾向にあり、自分へのご褒美としての購買が習慣化しつつあるので、それをうまく使った商品構成や宣伝が重要ではないかと考える。
	商店街 (和歌山市内)	悪天候も少なく売上の減少はなかったが、今後も減少傾向は続くと思われる。
サービス業	ガス業	これからの冬場のガス需要期に向けてガスの仕入価格下落が望まれるが、ロシア・中東の情勢、ENEOS和歌山の閉鎖に伴う配送運賃の上昇等先行きは暗い傾向にある。経済産業省やエルピーガス振興センター等の補助金を利用しての積極的な設備投資が業界内で進んでいる。
	宿泊業 (和歌山県下)	11月は前年同月比90～110%でコロナ前に戻ってきている状況。ただし価格の値上により、多少の宿泊客減でも総合的には同等以上になっている施設もある。また、白浜や高野山地域でのインバウンドについても増えてきている。
	宿泊業 (白浜地区)	11月の対前年同月比の宿泊人員は102.9%、総売上高115.7%、1人当たり消費単価112.4%、総宿泊料金103.4%、1人当宿泊単価100.4%であった。2023年1月から11月の宿泊人員は884,366人で、前年同期間(2022年1月から11月)と比べると121,234人の増加である。
	飲食店	コロナ感染症の影響が少なくなり、売上及び客数は、昨年より増加しているが、コロナ禍以前と比べ、まだまだ回復の途中である。現状は、料理店、居酒屋等は売り上げが8割程度だが、相変わらず2次会等が回復せず、スナックやクラブ等はやや戻りつつあるが厳しい状況である。温泉・観光地の飲食店は旅行客等により賑わっており、売上及び客数も昨年より増加しているが、それ以外の飲食店はそれ程ではない。一方、原材料価格の高騰や従業員の人手不足と賃金の上昇により、収益は横ばいとなっている。インバウンドによる売上は増加しているが、全国に比べ回復は遅いと感じる。徐々にコロナ禍の影響も薄れ、新規創業資金及び設備投資等の借り入れが回復基調にあるようだが、既存店は、コロナ融資の元金返済が始まり、借り換え等、返済に苦慮している。
	自動車整備業 (御坊市方面)	新車の納期が緩和されたことにより、中古車の売上高が減少している模様である。金融状況は特に変わらないが、地域と言うより業界全体の問題点として、人員不足になっている事業所が多いのが現状である。
	自動車車体整備業	自動車取外し部品の処理費用等の有償化啓発ポスターを制作、組合員事業所に掲示するなど周知を図っていく。
	建設業	総合工事業 (田辺市方面)
総合工事業 (新宮市方面)		公共工事の受注状況は国発注工事で減少、県・市町村工事では微増であった。依然として働き手不足は深刻で、外国人労働者の雇用を検討される業者も増えてきた。
建築用板金業		11月も少しは期待していたが、やはり良い情報は得られなかった。木造建築の需要が落ち込んでおり、物価上昇に伴いリフォームも次期延長の

		兆しが見える。このままだと本当に賃金水準上昇できるのか、小規模事業者には問題外かもしれない。このまま12月も見守るばかりである。
	電気工事業	全体の景気を見れば、観光業や地域イベント等が活発となり、それに付随し工事の発注も増加傾向となっている。しかし、仕入れ単価は相変わらず高騰しており好転とは言えない状況である。
運輸業	道路貨物運送業 (和歌山市方面)	燃料油価格激変緩和措置が延長され、軽油価格は高値となっているが影響は少ない。燃料代・賃金・車両代(タイヤ等部品代・修繕費含む)の高騰に対して運賃転嫁は進んでいるとは言えず、加えて景気減速に伴い物流が減少しており、厳しい環境下である。12月は年末需要による売り上げ増を期待する。冬のボーナスなど年末は資金需要が多く、資金繰りは厳しい。
	道路貨物運送業 (有田市方面)	有田地域では温州ミカンの出荷時期をむかえ、本地域の繁忙期到来である。軽油価格は高値であるが、昨年のように品薄状態になることは今のところない。